

KLIS TODAY

No.
27

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

2015 年大学説明会を終えて

伊藤 洋平

今年の大学説明会は、例年を大幅に上回る生徒及び保護者の方が来場してくださいました。慌てながらも、会場の講堂の映像を別の教室に配信したりして、来場者全員に学類説明やパネルディスカッションの様子を見ていただけたと感じています。この試みは来年以降もぜひ実施していきたいと思います。

この学類は「どんなことを学ぶのか」という質問が絶えない学類です。この疑問に対して、学類長による教育課程・入試の説明、模擬講義といった先生方からの学類の紹介、パネルディスカッション、スチューデントトークといった学生からの学類の紹介、両者が相互に係るオープンラボ、それに加え今年は大学全体と大学生生活を収録した映像展示、とできるかぎり多方面から学類の全体像を把握していただけるように考えました。また、大学の施設について知れるキャンパスツアーとここまでの企画での疑問に対応する相談コーナーで、足りない部分をカバーできるようにしました。

その疑問に答えることを重視した結果、少々自由度の少ないスケジュールになったことが最大の課題だと考えています。来年以降も説明会実行委員会は、疑問を持つ人全てに応えられるような大学説明会を目指していこうと思います。

(いとう・ようへい 知識情報・図書館学類 2 年次)



学類長による教育課程・入試の説明



パネルディスカッション

成松 万里奈

8月8日に行われた大学説明会において、パネルディスカッションの企画を担当しました。パネルディスカッションとは、AC入試・推薦入試・前期文系・前期理系のそれぞれの入試形態の学生が、受験勉強の方法や受験生活など入試経験と、宿舍・アパート・自宅通学それぞれの生活形態について、パワーポイントを用いて一人15分ほどでプレゼンする企画です。私自身も、発表者と進行役として登壇しました。また、当日は別室でも中継を行い、多くの方にご覧いただきました。

パネルディスカッション内容について紹介したいと思います。それぞれ入試のスケジュールや入試内容について紹介しました。AC入試では合格者がどのような取り組みをしていたか、何がAC入試において求められるかについて、推薦入試では入試を受けるまでの準備、試験内容の対策方法など、前期入試では受験した科目の問題傾向と対策などについて発表しました。それぞれの入試を考えている人にとって参考になったと思います。

次に生活についてです。ここではそれぞれの通学形態におけるメリットとデメリット、どのような生活をしているかについて発表しました。春日宿舍は通学に便利で費用が安いがトイレや調理などで部屋を出なければならない、アパートは生活がしやすく落ち着くが光熱費が高い、自宅通学は健康が維持できるが通学に時間がかかる、などを挙げました。日々の大学生活をいかに過ごしているかを学生目線で語れたのではないかと思います。入学後、どのような生活形態にするか選ぶ際の参考になればと考えます。

多くの方々に参加していただきました。この企画が知識情報・図書館学類の受験を考えている皆様およびその保護者の方にとって有益なものになれば幸いです。

(なりまつ・まりな 知識情報・図書館学類1年次)



受験を決めたきっかけ



AC入試について説明する小林さん

スチューデント・トーク

石浜 舞里花

今年のスチューデント・トークでは、6人の発表者がそれぞれ自身の視点から学生生活に関することを発表しました。学内では少数派である自宅通学者（通称、宅通民）の実情や春日エリアの住人御用達のスーパーマーケットの紹介、筑波大学内に数多くある学食（一部）の紹介など入学後の生活がイメージできるようなプレゼンが行われました。そして私も、大塚図書館以外のすべての附属図書館に赴いて撮影した写真を使って筑波大学附属図書館の紹介をしました。やはりこの学類を見学してきた方の中には図書館が気になる方も少なからずいたようで、興味を持ってもらえたように感じました。また、入学直前に焦点を置いた新入生歓迎委員の話もあり、未来の新入生の期待を膨らませられたのではないのでしょうか。

大学説明会では学生がプレゼンする企画として、スチューデント・トークとパネルディスカッションのふたつがあります。これらの企画の大きく異なる点はプレゼンするテーマにあります。パネルディスカッションでは主に受験に役立つテーマを取り扱います。しかしスチューデント・トークではそういった受験に有益なテーマはほとんど取り上げません。ではスチューデント・トークは聞いてもあまり意味がないのか、と思われるかもしれませんがそうではありません。スチューデント・トークによって、入学後の自分を想像したり、「大学生活楽しそうだな」とか「学食おいしそうだな」とか感じたりして受験に対するモチベーションも上げられるのではないのでしょうか。

発表のスライドに載せた Twitter のアカウントにコンタクトを取ってくれた方が何人かいましたので、うれしい限りです。今回のスチューデント・トークが受験の励みとなってくだされれば幸いです。皆様の入学を心よりお待ちしております。

（いしはま・まりか 知識情報・図書館学類1年次）



スチューデント・トークの様子

学生と身近に触れ合える相談コーナー

飯村 美晴

相談コーナーでは、各入試区分にブースを設け、受験生や保護者の方の質問に対応できるようにしました。昨年よりも多くのブースを設けたため、さらに多くの方に来ていただけたと思っています。当日は、真剣に質問をする受験生の方と、自身の体験を踏まえて詳しく回答する学生の様子が見られました。同じ道を通ってきた学生に話を聞くことで、少しでも受験生の皆さんに役立てていただけていたら嬉しく思います。また、今回このコーナーでは学生の皆さんの協力が大きな助けとなりました。今回を踏まえ来年度も多くの方に来てもらえるように、より良いコーナーにしていきたいと思っています。

ここで、受けた質問とその回答の一部をご紹介します。

- 推薦入試への対策が聞きたいです。

推薦入試は面接と小論文が課されます。自分の言葉で考えを伝えられるように練習をしましょう。いろいろな人に面接の練習や小論文の添削をしてもらうことがいいと思います。

- AC 入試について

自分が今までやってきた活動とこの学類で学べることの共通点を探し、入学後に何をしたいのかを具体的に考えましょう。

- 数学はどのように勉強すればいいのでしょうか？

数学は多くの問題を解き、解法の引き出しを増やすことが非常に重要です。また、大学入学後も必要になってくるので、合格が決まってからも（数学に限らず）勉強は続けることをおすすめします。

- 今までプログラミングなど学んだことがなく入学後ついていけないか不安です。

学生の中には初めてプログラミングを学ぶ人も多くいます。自分で興味をもって取り組むことや、詳しい人に聞くことで理解を深めていきましょう。

（いいむら・みはる 知識情報・図書館学類1年次）



入試形態別に相談



保護者も一緒に

映像制作について

広島 加奈子

私は、大学説明会に向け、知識情報・図書館学類生の一日、そして筑波大学内の施設について紹介する動画を制作、上映しました。

知識情報・図書館学類生の一日では、本学類の学生の一日を追い、授業や生活の様子を伝えました。学生がどのように一日を過ごしているのか知っていただけたと思います。

また、もう一方の動画では、筑波大学を南北に走るペDESTリアンデッキと呼ばれる歩道を自転車で走りながら、学内の建物や施設について紹介しました。一年生がよく利用すると思われる建物を中心に取り上げ、テロップなどの文字なども見やすいよう工夫しました。筑波大学の広さを感じてもらえるような映像ができたと思います。

これらの映像は、私を含めた委員で7月中に撮影・編集しました。屋外では悪天候に苦しみ、何度か撮り直しもしました。予定通りにいかない部分もありましたが、委員の皆さんの尽力のおかげで、何とか完成させることができました。



動画を上映している様子



講堂の企画を記録している様子

当日は、学類長挨拶やパネルディスカッションなどをカメラで記録し、他の教室に動画配信しました。配信は今年が初めての試みで、上手くいくかどうか不安でしたが、保護者の皆様や教室に入れなかった方にも企画の様子を伝えることができたと思います。

当日の様子は、動画として公開する予定です。この学類を志望するみなさんに興味を持っていただけるような企画ばかりだったと思います。そちらもぜひご覧ください。

(ひろしま・かなこ 知識情報・図書館学類1年次)

知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞

今年度は椎名智紀さんと松田悠平さんに「知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞」が贈られました。この演習は2年次必修科目で、図書を対象とした書誌レコードの作成およびその検索システムであるOPAC(Online Public Access Catalog)の構築を行います。

椎名 智紀

優秀作品に選ばれるようなプログラムを作り上げられたということは大きく自分の自信に繋がり、またとても良い経験になったと思います。

OPACを作成する上で私が重要視したのは、使いやすいものを作るということでした。どのようなデザインであれば使いやすいのか、どのような機能であればより使いやすくなるのかということを考えながら様々なOPACを参考にしながら、出来る限りの使いやすさにこだわって完成させました。例えば、簡易検索と詳細検索をタブで分けて切り替えて使えるようにする、著者やシリーズ名で再検索することができる、ソート機能や1ページ当りに表示できる項目数を変更できるようにしました。

時間が足りず実装しきれなかった機能などもまだまだあったので、プログラムを学んでより効率的にプログラムを書けるように、また、より良いものを作っていけるようにこれからも多くを学んでいきたいです。

(しいな・ともり 知識情報・図書館学類2年次)



松田 悠平

私がOPACの作成をするにあたり重視したことは、いかに分かりやすいシステムを作れるかということでした。そのために、様々な大学、公共図書館のシステムを参考にし、必要な機能とデザインをまとめていきました。簡易検索と詳細検索は別タブにし、詳細検索ではユーザーが柔軟に検索できるように様々な検索条件を設けました。また、検索結果を分かりやすく表示するために、データベースに格納するデータの形も工夫しました。これらの工夫が今回優秀作品賞をいただくことができた要因だと思っています。

最初に思い描いた機能をすべて実装することはできませんでしたが、完成したOPACを利用してみたときには、実際に利用されているサービスに近い形のものを作成することができたという達成感を感じるとともに、プログラミングの楽しさ、難しさを垣間見ることができ、今後より複雑なサービスを作りたいと思いました。

(まつだ・ゆうへい 知識情報・図書館学類2年次)



新任教員紹介

辻 泰明

学生時代は映像文化研究会に所属して8mmフィルム映画を作ったり、外部の映像研究所に通ったりしていました。卒業後は、放送局に勤め、ディレクターあるいはプロデューサーとして、ドラマ、ドキュメンタリー、ニュース番組などさまざまなジャンルの番組制作に携わりました。編成局に異動してからは、モバイルコンテンツ開発、携帯向けのワンセグ独自サービス、オンデマンド配信など新規事業を担当しました。

今、映像メディアは、デジタル化とインターネットへの展開によって、革命的な変化の最中にあると思います。膨大な映像資料の活用が進むと共に、斬新なコンテンツやサービスが続々と生み出されています。挑戦しがいのある未踏の領野が眼前に広がっているのです。テレビ放送の黎明期、送信塔が屹立した筑波山は「電波の山」と呼ばれました。そういう縁のある筑波の地から、新たな世界を切り開く人材が巣立っていくよう、お手伝いしたいと願っています。



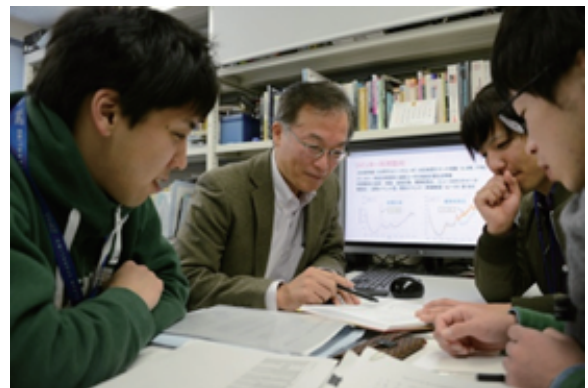
(つじ・やすあき 知識情報・図書館学類 教授)

人工智能に負けるな！

佐藤 哲司

「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトをご存じでしょうか。コンピュータがクイズ王を打ち負かしたニュースや、人工知能研究は即座に中止しようキャンペーンなど、大量のデータを学習することで様々な推論を実現しようとする人工知能が話題となっています。

小職が主宰する『コンテンツ工学研究室』においても、大量のデータから何らかの規則、知識を発見・発掘することを目的とした人工知能の研究を行っています。特に、日常的に利用が広がっているツイッターなどのソーシャルメディアによって繋がる他者との関係性や、相互信頼の形成過程を解明しようと、学生とともに取り組んでいます。繋がることが知識の再生産にどのように寄与するのか、また、情報や知識をどのように検索・提供することが求められているのかなど、人工知能を鍛えるとともに、われわれ人も高めあう研究を推進しています。



学生と研究室に於いて

(さとう・てつじ 知識情報・図書館学類 教授)

* 佐藤先生には、2014 BEST FACULTY MEMBER（研究領域）として表彰されたことを記念してご執筆いただきました。

学類誌 MILK 編集部へようこそ

菊池 ゆとり

はじめまして。知識情報・図書館学類誌 MILK です。今回より、われわれ MILK 編集部がこの KLIS TODAY の一記事を担当させていただくことになりました。Management、Information、Library、Knowledge の頭文字をとって名付けられた知識情報・図書館学類誌 MILK は、2011 年の創刊以来、学類生の学類生による学類生のための雑誌として、学生ならではの目線で学類生に有益な情報を発信すべく年 2 回（7 月・12 月）の発行を行ってきました。また今年からの新しい試みとして、研究室紹介号などの特別号の企画・発行にも取り組んでいます。

編集部には現在 1～3 年生の 8 名が所属し、記事のアイデア出しや取材・執筆・編集までのすべての作業を行っています。またイラストやデザイン・レイアウトなど、部員それぞれが自分の得意分野を生かしながら、ひとつの雑誌を作り上げています。この夏休みには、8 号に向けて図書館をはじめとするさまざまな施設に取材に出向き、そして記事の執筆・編集を行いました。

MILK はまだ歴史の浅い雑誌のため、記事の内容や質にはまだまだ向上の余地があります。7 号よりロゴデザインも一新し、編集部として安定してクオリティの高い雑誌の発行を継続できるよう、部員一同日々創意工夫を凝らしています。次号は、知識情報学や編集部の仕事に関するつぶやきを各部員よりお届けします。

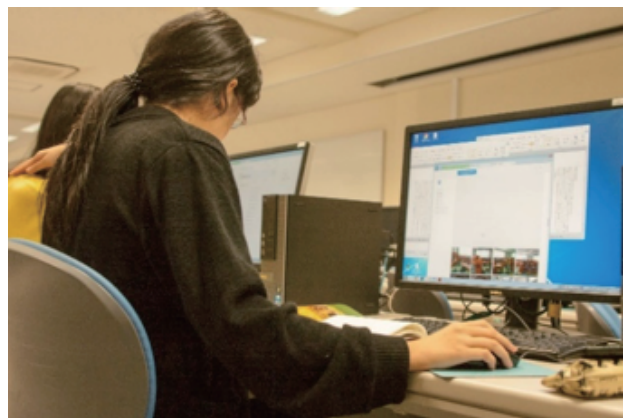
（きくち・ゆとり 知識情報・図書館学類 2 年次）

Web: http://klis.tsukuba.ac.jp/klis_milk/

Twitter: @KLISMILK



MILK 新ロゴ



編集作業の様子